令和元年度新潟県農業再生協議会　議事録

日時：令和２年１月16日
午前10時～11時30分
場所：ＪＡビル10階大会議室

開会
○　定刻となったので、ただいまから令和元年度新潟県農業再生協議会を開会する。
○　はじめに、石山会長より開会のごあいさつを申し上げる。

開会あいさつ（石山会長）
○　本日はご多忙のところ、委員並びに専門委員の皆様からご出席を賜り、感謝する。
○　今年は災害のない年となるよう願いたいが、この正月は私が経験した中で最も降雪の少ないものであったため、春先から夏にかけての水不足が心配される。
○　本県の令和元年産の主食用米は、平成29年度から増加を続けている状況であり、全国の需要が減少していく中で、需要の裏付けのある生産を行うよう、より一層関係機関・団体が連携して行っていく必要がある。
○　本日の協議会では、米の需給・価格の安定と生産者所得の最大化に向けた「水田フル活用ビジョン」および「令和２年度の産地交付金の運用」、令和２年産の需給適正化に向けた対応について、協議いただく。
○　限られた時間ではあるが、忌憚のない意見を賜りながら、円滑な協議への協力をお願いし、開会の挨拶とする。

事務局
○　本協議会は原則公開をしており、議事録について新潟米情報センターのホームページに公開することとなっているのでご承知おきいただきたい。
○　本日の出席状況を、出席者名簿で確認する。ＪＡ越後おぢやの谷口専門委員、ＪＡえちご上越の石山専門委員が交通事情により遅参する。
○　ここからの進行について、石山会長にお願いしたいがよろしいか。

会員：異議なし

○　それでは石山会長、よろしくお願いする。

石山会長
○　それでは次第に沿い、議事の進行を務めさせていただく。
○　なお、本日の議事録については事務局で作成することとし、議事録署名人の選出については、

慣例により私に一任いただきたいが、いかがか。

会員：異議なし

○　異議なしと認め、議事録署名人を新潟県農業共済組合連合会の五十嵐会長理事、新潟県担い手育成総合支援協議会の松井事務局長にお願いする。
○　それでは情勢報告として、国の農業施策等について、北陸農政局新潟県拠点から説明いただく。

北陸農政局新潟県拠点　齊藤地方参事官
～国の農業施策等の情報について（資料１）～

石山会長
○　それでは、ただいまの説明について、ご質問を受け付けるが、いかがか。
○　ないようであるので、次に情報提供として県生産目標の市町村別内訳及び地域協議会の目標設定状況について、県農産園芸課の牛腸課長から説明いただく。

県農産園芸課　牛腸課長
～令和２年産　新潟米の県生産目標と市町村別内訳（資料２）～

石山会長
○　ただいまの説明について、ご質問を受け付けるが、いかがか。
○　ないようであるので、協議事項に移る。
　令和２年度水田フル活用ビジョンについて、県農産園芸課の牛腸課長から説明いただく。

県農産園芸課　牛腸課長
～令和２年度新潟県水田フル活用ビジョン（案）（資料３）～

石山会長
○　ただいまの説明について、ご質問を受け付けるが、いかがか。

新潟県法人協会　永井会長
○　県ではいわゆる転作に特化した内容としているが、専業の園芸農家から「水田農業ばかりが優遇されており、園芸農家をダメにしてしまう」との声がある。
○　コシヒカリからの転換を進めるという政策の中で、作期が異なる多収性品種や飼料用米よりも、業務用米の「にじのきらめき」など、コシヒカリと作期が同じ品種を推進した方が転換は進むのではないか。

県農産園芸課　牛腸課長

○　産地交付金や水田フル活用ビジョンについては、水田を活用しどのような農業を展開していくのかというベースに基づいているため、水田に着目した組み立てとなっている。

国も高収益作物への支援に力を入れている中、県段階、地域段階で産地交付金を有効活用し、水田を活用した園芸振興を進めていきたいと考えている。

○　「にじのきらめき」が良い品種ということは、担い手の皆様からもお聞きしている。どのような品種選択をするかは各農家の経営判断ではあるが、良い情報は引き続き提供していく。

コシヒカリと作期が同じ品種の設定については、県の研究センターとも相談し設定を進めていきたい。

新潟大学　伊藤助教

○　大きく言うと、このビジョンに賛成であるが、いくつか確認したい。

○　資料１ページ「２ 作物ごとの取組方針等（２）主食用米、ア 家庭用米」における記載にて、昨年と比較し、コシヒカリの需要から『減少』という文字を削除している。

これは全国的なコシヒカリの需要量の減少の中でも、新潟米のコシヒカリはそれなりにニーズがあるため減少とまでは至らなかったという情勢分析なのか。もしくは、全国的にコシヒカリの需要が減少とまで至らなかったという意味か。

○　近年、新潟産のコシヒカリは足りないという声があるため、『減少』を削除したと推測するが、そうであれば、コシヒカリの 2020 年度の目標作付予定面積を減らさないという計画もあり得たのではないかと思うため、説明を願いたい。

県農産園芸課　牛腸課長

○　作柄による差はあったものの、これまでは全体に共通して減少しているという意味が強かったが、需要が増えても減っても需要に見合った生産という言葉が適切であると判断し削除した。

○　面積については、前年度のコシヒカリの作付面積が 62,100ha であり、直近２年では主食用米の作付面積が 6,500ha 増加しているため、適正生産を目指す中では、面積の絞り込みが必要との判断から、減少させている。

新潟大学　伊藤助教

○　その方針には賛成である。

○　作付をコントロールする重要性を内外に発信するため、このような数字にすべきとの理解はできるが、一方、作付の実面積と目標値との乖離が進んでおり、目標値自体の説得力も問われている。目標値に近づけていくような現場での努力を期待したい。

県農産園芸課　牛腸課長

○　県目標の実現に向け、産地交付金によるインセンティブや、需要の裏付けのある作付の推進

など、覚悟を持って目標をお示ししているところである。

石山会長
○　他に質問を受け付けるが、いかがか。

越後おぢや農業協同組合　谷口組合長
○　産地交付金について、昨年度までの多収性品種への支援から複数年契約の取り組みへの支援に要件が変更となっているが、産地交付金の対象となる契約時期を教えていただきたい。

県農産園芸課　牛腸課長
○　対象となる契約時期は、営農計画書の締切である６月末までに、３年以上の複数年契約を結んだものを想定している。

石山会長
○　他に質問を受け付けるが、いかがか。
○　ないようなので、次に令和２年度産地交付金の運用について、県農産園芸課牛腸課長より説明いただく。

県農産園芸課　牛腸課長
～令和２年度産地交付金の概要（資料４）～

石山会長
○　ただいまの説明について、ご質問を受け付けるが、いかがか。

新潟県農業生産組織連絡協議会　佐々木会長
○　加工用米について、県内実需との契約を優先的に支援するとなっているが、集荷するＪＡ等により契約先は県内外様々であり、取り組みにばらつきが出てくることが予想されるが、どのように対応するのかお聞きしたい。

県農産園芸課　牛腸課長
○　県内実需との契約に対する取り組みへ優先的に予算を充てた後、余りが生じたら県外実需との契約に対する取り組みに充当する。

新潟県農業生産組織連絡協議会　佐々木会長
○　県内実需への充当分で予算を全て消化した際には、県外実需との契約に対しては、支援措置されないということか。

県農産園芸課　牛腸課長
○　そのとおりである

石山会長
○　他に質問を受け付けるが、いかがか。

新潟大学　伊藤助教
○　新市場開拓用米において、海外のエンドユーザーと農業者自らが複数年契約を結ぶというのは、現実的に不可能に近いと思われ、単年度であっても輸出に取り組むという農業者や産地の阻害要因になることを危惧している。
　このような農業者や産地へも県単事業等で支援できるような体制をとってほしい。

認定方針作成者連絡協議会　坪谷会長
○　ただ今の伊藤助教のご意見を踏まえて、輸出に取り組んでいる身からの意見を申し上げるが、単年度の取り組みへも支援を行うと、米の投げ売りが発生してしまう恐れがある。そして低水準となった米価が今後の基準となってしまい、実際に過去にも米価が下がった経過がある。
　責任を持って複数年供給ができるという体制を取ることが、重要と考える。

石山会長
○　他に質問を受け付けるが、いかがか。ないようなので、事務局案とさせていただく。
○　次に令和２年産の受給適正化に向けた対応について、県農産園芸課牛腸課長より説明いただく。

県農産園芸課　牛腸課長
～令和２年産の需給適正化に向けた対応について（資料５）～
～新たな米政策における地域の取組事例集（資料６）～

石山会長
○　ただいまの説明について、ご質問を受け付けるが、いかがか。

認定方針作成者連絡協議会　坪谷会長
○　北海道は半数近くが契約栽培と聞いた。
○　本県のコシヒカリで言えば、一昨年は不作、昨年は品質低下で流通が逼迫していることにより売れているのが現状である。
○　生産者が作付の判断を誤らないために、確実に売れる米づくりへの取り組みを方針作成者が努力するようしっかりと働きかけ、オール新潟で生き残っていく戦略を発信してほしい。

県農産園芸課　牛腸課長

○　いただいたご意見のもと、しっかりと取り組んでいく。

新潟県法人協会　永井会長

○　実務上、地域農業再生協議会が取りまとめるのは中々難しいのではないか。

○　現状では、紙ベースで各圃場情報を管理しているが、地図上で圃場毎に作付品種を一括で管理、電子申請等を可能にする等のＩＴ化を進め、取りまとめが素早くできるような体制を整えていただきたい。

北陸農政局新潟県拠点　齊藤地方参事官

○　営農計画書の取りまとめ等について、効率的に確実性を持って申請が可能なよう、国でも電子申請化を進めているところである。

○　また、需要に応じた生産に関し、国においても事前契約を推進すべきではないかとの問題意識を持っている。時期、価格などの契約のあり方や生産サイド、実需サイドの観点を整理し、需要に応じた生産に資する契約のあり方を検討していく予定である。

石山会長

○　他に質問を受け付けるが、いかがか。

認定方針作成者連絡協議会　坪谷会長

○　水稲生産実施計画書には品種の欄は無いように思うが、どこで誰がどの品種を作付しているかは、どのように把握しているのか。どこの方針作成者でどのくらいコシヒカリに取り組んでいるか等が電子データで分かると、需要に応じた生産や事前契約が進むのではないか。

県農産園芸課　牛腸課長

○　筆ごとの品種を押さえているのは経営者のみであり、集荷団体や行政として把握できるのはせいぜい経営者単位までである。ご指摘いただいたような工夫が適正生産や需要の積み上げに有効となるのであれば、検討していきたい。

石山会長

○　他に質問を受け付けるが、いかがか。

○　ないようなので、いただいた意見をもとに再度内容を精査し、修正する必要がある場合には、会長である私に一任頂けたらと考えるがいかがか。

一同

○　異議なし

石山会長

○　協議事項は以上となるが、その他として何かあるか。

○　ないようなので、以上で本日用意した内容をすべて終了する。議事の進行にご協力いただき感謝する。本日の議事は終了させていただく。それでは、事務局に進行をお返しする。

事務局

○　1月24日に地域農業再生協議会の実務担当者説明会を開催し、本日ご協議頂いた内容について、説明する予定である。

○　閉会にあたり、副会長である新潟県農林水産部の山田部長から閉会のごあいさつをお願いする。

新潟県農林水産部　山田部長

○　本日は水田フル活用ビジョン、産地交付金の運用、需要適正化に向けた対応についてご協議いただき感謝申し上げる。平成30年の農業産出額が発表され、本県は29年度と比べ1％、26億円減少の2,462億円となっている。園芸にも経営の幅を広げていく方向ではあるものの、やはり本県の基幹である米で、農業産出額や農業者の所得を確保していくため、需要に応じた生産を通じて価格の安定を図る必要があると思っている。

○　麦・大豆等の作付拡大をした産地への産地交付金のシフト、すなわち、主食用米を増やした産地は産地交付金を減らすというメッセージの中で、私はもっと配分額が減らされると思っていたが、これが約1割の減少に留まったということは、主産県への期待が込められていると思っている。2年産の需給の安定に向けて、各関係機関が一体となって取り組みを推進していきたい。

事務局

○　以上をもって、本日の協議会を閉じさせていただく。

議事録署名人　松井基博

議事録署名人　石塚[illegible]